

## 下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：木屋川中学校 図書室
2. 日 時：令和7年7月10日 19:00~20:15
3. 参加人数：45名（教育委員会除く）
4. 主な質疑

### ■参加者

第4期に至るまでに、王喜小、吉田小、木屋川中においては木屋川中に小中一貫するような形だったが、どのような理由で、王喜小と木屋川中に併設という形になったのか。

### □教育委員会

第3期計画では木屋川中の位置で施設一体型の小中一貫校の計画であった。実際、木屋川中学校の校舎自体大きいものではないが、当時はそこに、王喜小、吉田小、木屋川中学校というプランであった。

児童生徒の数が少なくなった一方で、特別支援教育などの多様なニーズに対応した教育活動をするため、学級数が減っても使う教室のニーズは逆に広がっている。現時点においては、2つの小学校と中学校をこの校舎の中で一体型で使っていくことは、非常に厳しい状況。木屋川中の施設を増設していくことが必要になってくる。増設部分の建設に時間を要する。それが現時点においては状況に應じてないため、この位置での一体型の小中一貫教育校というのは、適していないのではないかということが考えの中にある。

5年前の説明を変更したが、その時の意見の中で、木屋川（大きな川）の近くに学校があるため、ハザードマップにおいても、高潮、洪水の心配がある。王喜小学校は優先対象校ではないのに変わることが非常に心配だという声を当時いただいた。今回は、小学校を統合した上で、施設分離型で小中一貫のよさは生かしていこうという判断である。

### ■参加者

従来は小中一体型の一貫校という話であった。いろいろ悩みはあったが、一体型の小中一貫校だったら、メリットも確かにわかるなという思いをしていたが、今日の話では、分離型の小中一貫校ということ。このメリットというのはなかなか

かわかりにくい。

王喜小学校と木屋川中学校は相当距離がある。一体型と言いながら、何がどう一体型ですばらしい教育上のメリットあるのか疑問を持ってる。

吉田にとっては小学校はコミュニティの核であるという話もあったが、吉田にとって本当に大事な機関である。この小学校を通して吉田の地区民が一体になってる部分がすごくある。そして吉田から外に出ていった若者たちの中には、やがて吉田に帰ってくる気持ちを持っている若者もいる。私の孫も今2人山口に勤めているが、将来下関に帰ってくると言っている。吉田小学校がなくなると、吉田に帰ってくる可能性はほとんどなくなるのでは。そういったときに、吉田は今も人口減少があって、将来消滅するのではと思う。何とか歯止めをかけたいと思っているが、逆に消滅に拍車をかけていくのではないかという危惧も抱いている。

もし吉田小が王喜小、木屋川方面に通うとなるとスクールバスか。吉田は大変広い。吉田の中心部から王喜小学校までは大変な距離があるが、どう考えているのか。

#### □教育委員会

小中一貫教育校は3つのタイプがある。以前木屋川中学校区に作ろうとしていたのが小中施設一体型という形。下関市内では内日地区に小中一貫教育校の一体型の学校が開校している。隣接型というのもあって、すぐ隣に小学校と中学校がある形。これは名陵学園が下関市内では開校して動き始めている。木屋川中学校区では分離型という形で考えてるが、一体型と隣接型に比べると小中一貫を進めるには難しい面は確かにある。

実際、吉田小学校、王喜小学校、木屋川中学校は、すでに小中一貫教育を進めている。小学校1年生から中学校3年生まで、目指す子供像を決めて、小学校中学校の教職員が一緒になって、児童生徒を育てていく取組はすでにされている。分離型になっても、今と変わらないのではないかと思うかもしれない。しかし、合同の研修会、合同の職員会、合同の学校運営協議会を開いたりして、教職員がしっかり情報交換をして、合同の行事や児童生徒のふれあいの活動、中学校の教員が小学校に行って教科の授業を教えたりする取組もでき、小中教職員がしっかりと児童生徒の理解を進めていくこともできる。移動もあるので教職員の負担はあるが、充実した小中一貫教育を行うことはできると考える。

今は吉田小、王喜小と2校あってそして木屋川中学校という3校が一貫教育を進めているが、これが1つの小学校1つの中学校になる、そして1つの学校になるということで、より教職員の意識も児童生徒の意識も1つの学校なんだという気持ちを持って取り組みを進めることができる。もちろん一体型、隣接型

に比べればデメリットもあるが、しっかりと小中一貫教育を進めていけると考えてこの計画を策定している。

地域には学校が大事。学校がなくなることで、地域が衰退するのではないかという心配のお尋ね。これに関しては、第 1 期計画から説明会を行って、地域からの心配の声はいつもいただいている。教育委員会としては、学習集団としての教育環境を整えるということで、学校の規模を重視しての計画である。一定の学校規模を確保するために、特に小規模になった学校を統合していくということが必要であると考えている。一方で、地域に学校が大事ということも重々承知している。皆さん学校に集まって、学校で地域の活動をすることは大事なことだと思っている。学校を残さないといけないということと、学校を統合していかないといけないという相反する課題に当たっている。教育委員会の考えるこの計画を示した上で、地域と理解を深めて合意なしには進めないと考えている。相反する部分の考え方であるため、それを十分話し合いをして、統合すべきだということであれば進めなければと思う。地域としてよくない、学校がなくなっては困るという声が強いようであれば、その意見を無視して進めるという考えはない。反対の考え方になるため難しいが、市教委の考えと地域の考えを合わせて進めるべきという考えを持っている。

通学に関してスクールバスのは、保護者、地域から心配の声を必ず聞く。最も心配なところかと思う。子供たちの通学、身の危険に及ぶということもありえるので、そこは重々承知している。

通学に関して通常の基準は、小学校は 4 キロ、中学校は 6 キロ以上の通学距離がある場合に、通学に係る支援を行政として行っている。通学経路上に公共交通機関があれば、まずそれを活用することで交通費にかかる支援をしている。そういった交通機関がないところは、スクールバスでの対応をしている。木屋川中学校区、特に、吉田小学校が王喜小学校の方に統合するという形になった場合に、学校と学校の距離でいうと 4 キロぐらいで、吉田小学校区の児童とすれば、吉田小学校ぐらいのところからが遠距離通学ということになってくる。公共交通機関でいうと吉田小学校前から木屋川中学校経由のバス路線があるが、便数でいうと、朝 1 便、夕方 1 便しかない。木屋川の西側を歩いて小月に行く路線は便数はあるが、こちらは王喜小学校からバス停の距離は相当にあると思っており、公共交通機関としてバス利用をするのは現実的ではないと思う。そうすると、スクールバスを考えていかないといけない事例になると思っている。その場合に、どういったバスの運行をするかは、統合を検討するのに話し合いをすることになる。今のところプランは持っていないので、スクールバスの検討を行っていないといけないと考えている。

■参加者

子供数が少なくなったということで大変な努力だと思う。地域も心配している。働き手がなくなる。職員には敬意を表する。政府の方で子供が増えるような計画、明るい計画があれば期待を持つが、今は少なくなる一方で、教育委員会でも努力されたと思う。このままでは産業がなくなる。こういうことを政府で発表したような経緯があるか。希望のある話を聞ければ、それに向かって努力すると思う。政府は子供を増やせるような施策をしないのか、産業はすぐつぶれる。働き手がなくなる。把握していれば教えてほしい。

□教育委員会

子供をふやす施策がいるのではないかとこのころは、我々もそう思っているし、政府もそう思っている。政府でも、いろんな給付金やいろんな施策、若い人に対する施策をやってる。下関も医療費や給食費の金銭的な補助を考えている。

ただ、自分の子供や孫のことを考えて、どんどん子供を作っていって、子供を増やしていこうというところまで、日本全国がなっているのか。下関の中で、ここをどんどん押していこうという形になっていないのは残念だが、下関に住んでもらいたいということで、下関の魅力を出していこうというのが、市役所職員の中でもある。

もちろん、労働力の確保も大切であるし、子供が安心して産み育てられるということをやっているが、目に見えて人が減っているのが現実問題で、これをてこ入れしていかないといけないのは当然その通りで、これは教育委員会だけではなく、全員で考えていかないといけない。こうしたら人が増えていくという名案がないので、日本全国やはり地方が疲弊していている。この先どうすればいいのか不安になってくるところだと思う。

木屋川中学校区でいくと、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんの子が見えて、安心して学校に預けられる空気感の中で、ぜひここで子供を産み育ててもらいたいという思いが強いと思うので、そういう若い世代が住みたくなくなるような町づくりというのは、これからも取り組んでいきたいが、今特効薬があるかという問いに関しては持ち合わせてないというのが回答になる。

■参加者

吉田は交通手段はスクールバスが現実的ではなかろうかという話だが、現実、こういった形でスクールバスが通るか、豊北ではすでに動いているので、朝夕にどの程度往復するのか、こういった使い方がされてるのか参考に教えてほしい。

□教育委員会

豊北地域では、1 小学校 1 中学校という状況になっている。7 地域にそれぞれバス路線を出して、一括してすべて集合していく。登校時刻、下校時刻を定めて、一斉に登校し一斉に出ていくので、同じ時間帯で学校に到着する形でバス路線の出発時刻等を考えている。帰りは基本的に一緒になるので、同じ時刻で出発するという形で運用をしている。

本地域はまだ具体がわからないが、この地域で運用しやすい、子供たちの安全を確保できるというところを決定しながら、様々なことを考えていくことになる。

#### ■参加者

この案が策定されるまでに、検討委員会があったと思うが、この 9 の該当の小中学校で、住民説明会が今されている最中だと思う。それから、パブリックコメントも求められていると思う。その後、12 年度がスタートか。11 年度までに計画をして 12 年度からこの形になるか、それとも 11 年度からスタートか。

それと、最終的には 9 つのところでアンケートをとるのか。是非について、パブリックコメントや、市内全体で抽出した人のアンケート結果をもとに決定するのか。最終的にこれでやりますよという決定はどうなるのか。

#### □教育委員会

計画期間に関しては、今回 4 期計画ということで、令和 7 年度から 11 年度までの間、5 年計画というところ。この 5 年間の間に、統合のパターンを示して、この期間に統合を目指すというのが考え。それを示した上で、それが地元住民として、受け入れられるものなのか、こうしたほうがいいのかとか、そういった議論を繰り返していかないといけないし、校区ごとにしていけないといけない。そこで、話し合いの上で、統合をしていきましょうという話になったら、その先の準備にかかっていくということになる。計画期間の 5 年間の間に統合を目指すのは、教育委員会としての計画だが、それがこの期間にすべてが実行される、それが決まっているという話ではなく、地元との合意に基づいて進める。

今回 4 期計画だが、過去の 1 期からの流れで言うと、そのまま計画どおり統合に至っていないという学校はずっとあり、そこには時間を要しているのが実情で、計画を策定した後に、実施に向けてどうかということは各校区の方と話し合いを進めていった上で合意に基づいて次に先に進むということになる。5 年先が来たから、もう実施しますという話ではないことを理解いただきたい。

それから、こういった形で決定するかということは、話し合いをした上で、多数決を取るというそういう形ではない。

最終的に統廃合するときに、必ず学校というのが1つ廃校になるので、学校は市の条例でこういう学校をおきますという条例があり、この条例からこの学校をなくすことには、市議会に諮ってそれで決まる。学校をなくすことは非常に大事な話のため、通常は過半数の賛成があったら、その条例は可決されるが、学校をなくすことに関しては3分の2以上の賛成がないといけないという決め事がある。最終的には市議会に諮るので、その多数決の判断ということになる。地域との合意形成、地域の方が統廃合をしましようというのをどういう形で確認するかというと、協議の仕方は地域によっていろいろとやり方があるが、今までの事例でいうと、地域において、PTA、自治会、学校運営協議会等が参画する協議会を設けて議論をしていただき、その代表者に意思表示の書面を出していただくという形や、それぞれPTAと自治会で話をしたときに、連名で、書面を出して、統合することに同意しますというような書面をいただいているというのが、事例としてある。そこで確認し、統合するのに、校名をどうしようとか、制服をどうしようとか、そういった準備に入っていくという手順になる。そのため、統合に向けては少々時間もかかる。

#### ■参加者

吉田小学校がなくなるので、統廃合は吉田にとっては重大なこと。まちづくり協議会の一員にすぎないが、何とか吉田で熟議をして、より多くの人としっかり今日のことも元にしながら、本当に吉田にとって、吉田の子供にとって、そして吉田地区にとって、どういう方向がいいのかということ、とことん協議しなければならないと思う。自治連合会を中心に吉田まちづくりも一緒になって、そういう会合をぜひもちたいと考えている。1回で済むとは思っていないが、何度もやらなければならないと思う。そういう際には、市教委からもぜひ来て、具体的な話をしてくれとかという要望も出すかもしれないが、その時にはお願いできるか。

仮に吉田で一応の結論が出たときに、今度は王喜と話をしていかなければならない。双方の合意形成をした上で、王喜吉田の代表者が、市教委に申し出をすれば、それから先はうまくいくと思う。そういう順番でよいか。これから先の、統合賛成反対どうなるかわからないが、まず熟議が大事。

#### □教育委員会

進め方の話はさせていただいたが、このやり方でないと応じないというものはない。今までやった事例を参考に、各地域でどういう形で進めていきたいと思いますかという話から進めると思う。どのやり方が唯一のやり方であるとは思っておらず、まだ気がついてないやり方があるかもしれないので、その意見を交わし

ながら進める。それから合意の確認の仕方も、もしかしたら違うやり方があるかもしれないので、そこも話をさせていただく形になるかと思う。柔軟な姿勢で話をさせていただきたいと思っている。地域からお話しましょうっていうことがあれば参るし、こちらからもお話どうですかという投げかけることもあると思っている。とにかく、話の場が必要と思うし、結論が出なければずっと話をさせていただくということにもなると思う。

#### ■参加者

今までもこの話は大人の中の話であって、中心となる子供の意見はどこにあるのか。子供が動きたくないというときには、どう対応するのか。そのあたりも考えてもらいたい。これは大人の都合で統廃合するわけで、子供にはそういう意見も、言う場もない、親が勝手に決めるわけでもないし、こういうところを重視することが本当ではないか。

#### □教育委員会

子供の意見が大事というのはその通りである。過去で言うとそういう手続き、子供の意見を聞くことはなかなかできてなかった。

国ではこども基本法という法律ができ上がり、この中には、行政の施策方針を決めていく上で、必ず子供から意見を聞くというのは、法律でその精神を定められている。

今からやっていこうと思っており、子供たち向けのアンケートを計画をしている。ただその聞き方に関しては、デリケートな話もあるため、聞き方は十分注意して、配慮していかなければならない。あなたの学校がなくなるかもしれませんよ、どう思いますかという聞き方は、ダイレクトすぎてよくないと思っており、子供たちがどういう環境を望んでいるのかというところを引き出すためのアンケートをやっていくべきと考えている。

地域が、この地域に学校がいるという形で、いろんなアンケートをして大きな声があった。みんながこの学校がいるんだっていうことで、統廃合がなかなか進まなかったところ、決まった後に私のところにお母さんが来て、「何で市の方は早くしてくれなかったのか。地元じゃ言えない。」という意見もあった。「この中で、学校がなくなるのに賛成するのは誰だ。」と探すようなことはないと思うが、子供の意見も、親の中でもいろんな考え方があるので、そこについては、声を出せる方は声を出してNOと言えるが、一定の規模の学校に行かせたいという方もいらっしゃるんだろうなというのは経験値。吉田、王喜にそういう方がいるかどうか分からないが、これから皆さんと話をしていくし、実際にはアンケートがあったが、保護者の意見はどうなのかというのは、よく地元で聞かれるので、

これは計画として目指すべきところで、具体的にこことここをいつからどうしましょうかっていうところには、当事者の保護者の話を聞いていかないといけない。地元と保護者と、これから保護者になるその下の世代の話はしっかり聞きながら、統廃合の具体については進めていく。

この度は計画を示して、これを計画として持っていくと考えているので、まだこれから話をしていけないといけない。

#### ■参加者

私は吉田小学校に子供が通っている。自分はもともと吉田出身ではない。吉田に越してきて、吉田小学校に来てよかったなと思うところは、小規模校ではあるが、地域に育ててもらっているというのがすごく感じる。様々な伝統行事であったり、学校の行事も含めて、地域の人々が全員で子供に関わってくれてるっていう、すごくいいところだなと思うところがある。

合意がなければ統合の話は難しいという話があったが、地域から学校がなくなるっていうことで、その地域が衰退するんじゃないかっていう意見。それから、少子化の波は避けられないので、統合すべき、適正配置をすべきということもすごく理解できる。そこを合意形成をしていくのは非常に難しいところがあって、そんなときに、なくなる側からすると、その地域はこのままどうなっていくんだろうということが心配。

そうなったときに、地域振興としてその地域に、例えば王喜小学校に統合されたときに、吉田小学校に子供がどうやってくるのかとか、教育のプログラムの中で吉田にどんどん関わっていくとか、そういったことを皆が考え、もちろん自分たち住む者としても考えていかないといけないと思う。そういった、お互いが吉田に何が残せるんだろうというところを、一緒に考えていければ、合意により近づいていくのではないかと思った。

#### ■参加者

分離施設王喜小学校、木屋川中学校での小中一貫ということで、一番課題となるのは吉田地域だと思う。小学校がなくなるということで、今いろいろ意見が出た。王喜小学校自体は変わらないが、何がメリットかというと先ほど説明もあった。

自分が中等教育学校の同窓会長をしている中で先生たちとの交流もある。先生の立場からすれば、高校の先生が中学校の面倒を見たり、中学校の先生が高校の生徒を見たりする機会がある。また担任的な面もあるようで、ためになったというのが1点。6年間の中で、生徒を長く見ているということで、その後の能力的なものも向上できるような形で指導できるという話は聞いた。



ここの小中一貫で先生の向上にも繋がると言われたが、それが生徒に繋がるように6年間の中でなるかと思う。中等によければ、入ったばかりの低学年で言えば、お兄ちゃんお姉ちゃんがいるから安心して学校に行けるというところがある。それと同時に、いじめもあまりないという話を聞いているので、そういったところから言えば、王喜小学校は、分離型施設で、こういった形で交流ができるのかという点をお聞きしたい。

#### □教育委員会

今、分離型の小中学校が市内に1つできている。吉見地区に今年度から開校した。開校したばかりで、この分離型でどんなことができるのかというのがまだ手探りの状態で、これから市教委と一緒に取組を進めていこうとしているところ。吉見中学校区で取組を進めてる1つに、中学校の中に小学校6年生が過ごせる部屋を1つ作って、そこで6年生が過ごして、中学校の先生から授業を受けたり、中学生と一緒に生活をしたりすることができるように体制を整えている。そういった交流の仕方がまず1つある。やはり一体型や隣接型に比べたら交流が難しいが、低学年の子が見学に中学校に行ったり、少しずつ取組を始めているところで、下関市としてこの分離型の取組であったりよさであったりは手探りの状態。これから市教委もよしみ小中学校と関わって行って、好事例や課題をしっかりと整理していく。これから始まっていくこの計画の中で、分離型が実は多いが、分離型がこれからできていくときに、このよしみ小中学校の取組をしっかりと反映できるようにしていかなければいけないと思っている。

一体型、隣接型と比べると、教職員の交流であったり、児童生徒の交流であったりというのは、中等教育学校ほどはできない。課題はあるがその課題克服のために、これから取組をしっかりと進めていこうと思う。